

◎礼拝説教：2020年6月28日  
◎説教者：中村準一 牧師  
◎タイトル：ヨブの嘆き  
◎今日の聖書：ヨブ記3章1-26節

1やがてヨブは口を開き、自分の生まれた日を呪って、2言った。  
3わたしの生まれた日は消えうせよ。  
男の子をみごもったことを告げた夜も。  
4その日は闇となれ。  
神が上から顧みることなく  
光もこれを輝かすな。  
5暗黒と死の闇がその日を贖って取り戻すがよい。  
密雲がその上に立ちこめ  
昼の暗い影に脅かされよ。  
6闇がその夜をとらえ  
その夜は年の日々に加えられず  
月の一日に数えられることのないように。  
7その夜は、はらむことなく  
喜びの声もあがるな。  
8日に呪いをかける者  
レビヤタンを呼び起こす力ある者が  
その日を呪うがよい。  
9その日には、夕べの星も光を失い  
待ち望んでも光は射さず  
曙のまばたきを見ることもないように。  
10その日が、わたしをみごもるべき腹の戸を閉ざさず  
この目から労苦を隠してくれなかったから。  
11なぜ、わたしは母の胎にいるうちに  
死んでしまわなかったのか。  
せめて、生まれてすぐに息絶えなかったのか。  
12なぜ、膝があってわたしを抱き  
乳房があって乳を飲ませたのか。  
13それさえなければ、今は黙して伏し  
憩いを得て眠りについていたのであるうに。  
14今は廃虚となった町々を築いた  
地の王や参議らと共に  
15金を蓄え、館を銀で満たした諸侯と共に。  
16なぜわたしは、葬り去られた流産の子  
光を見ない子とならなかったのか。  
17そこでは神に逆らう者も暴れ回ることをやめ

疲れた者も憩いを得

18捕われ人も、共にやすらぎ

追い使う者の声はもう聞こえない。

19そこには小さい人も大きい人も共にいて

奴隷も主人から自由になる。

20なぜ、労苦する者に光を賜り

悩み嘆く者を生かしておかれるのか。

21彼らは死を待っているが、死は来ない。

地に埋もれた宝にもまさって

死を探し求めているのに。

22墓を見いだすことさえできれば

喜び躍り、歓喜するだろうに。

23行くべき道が隠されている者の前を

神はなお柵でふさがれる。

24日ごとのパンのように嘆きがわたしに巡ってくる。

湧き出る水のようにわたしの呻きはとどまらない。

25恐れていたことが起こった

危惧していたことが襲いかかった。

26静けさも、やすらぎも失い

憩うこともできず、わたしはわななく。

## ◎宣教

ヨブの3人の友人が彼の災いのことを聞き訪ねてきたが、彼の変わりはてた姿と、痛みのひどさを見て、七日七夜一言も彼に話しかけることができなかった。ヨブは口を開いて、自分の存在を否定し、流産さえも願ったのだった。さらに彼は、死ぬことよりも生きていることの方が苛酷であると告白した。ヨブは1、2章で示した立派な信仰を捨ててしまったのだろうか？ 断じて否である。その信仰があるからこそ、彼は神に向かって自分の苦しみ、嘆きを正直に口にすることができたのだ。だが一番の苦しみは、答えのないことであった。その苦しみ、苦難に何の意味があるのだろうか。という問いに答えが得られないことであった。ゆえにヨブは「なぜ」という問いを何でも神にぶつけているのだ。ここで注目すべきことがある。それはこれほどの苦しみ、嘆きの中にあってもヨブは、決して「神をのろう」ことはなかったこと。ここが大切なところで、もしここでヨブが「神をのろって」しまったならば、1、2章でのサタンの挑発に屈せず「信仰者としてあるべき姿」、「神の信頼に応えた信仰」とは矛盾することになってしまう。大切なのはこの出口の見えない苦しみの中でも、ヨブは神への信仰を捨てていないこと。このことがヨブの信仰の力がさらに深まっていくことを暗示している。私たちはヨブの時代と違って、信仰の創始者であり、完成者である救い主イエスキリスト様を知っている。だが答えが得られない中でも、一途に神を見続けるヨブの信仰の姿勢を我々は見習いたいものである。